

## 青少年余暇活動センター Fritidsklubben Viadukten (ヴィアドクテン) 訪問

レポート：多田 聡

### ★センターについて

センターに来てまず気になるのは、施設の上にドカンと乗っている戦闘機？でした。何か面白いものがありそうだと、ワクワクしました。このセンターは、近郊の3校から子ども達が放課後に通ってくる施設で、10才から14才の子ども達が利用しています。まれに親の送迎もあるそうですが、ほとんどの子どもは自転車で通ってきます。

### ★毎日120名程度の子供達が活動

登録している子どもは300名おり、子ども達が自主決定で来所するので、日によって異なりますが、毎日120名程度の子供達が活動しているとのこと。センターを訪問したのは午後1時過ぎで、ちょうど学校が終わった子ども達が集まってくる場所でした。

### ★自分の家で遊んでいるような雰囲気

センターに来た子どもは、まず入り口にあるタッチパッドで各自入所退所のチェックをします。自分の名前（顔写真つき）をタッチすると色が変わり、帰りにまたタッチして戻すことで入退室の確認ができるシステムになっています。

子ども達は自由に出入りしていて、センターに来たら自分で好きなアクティビティを自由に始めます。自分の家で遊んでいるような雰囲気だということです。



<ゴーカートに挑戦>

### ★スタッフと指導

スタッフは7名でそれぞれに乗馬、ゴーカート、木登りやクライミング、卓球などの活動を指導するための技能を持っています。子ども達が必要であればサポートするような体制です。ケガや責任問題について質問があり、ケガがあればどんな場合もスタッフがサポートします。

病院に行くような場合には、子どもが安心できるようにまず保護者に連絡し、迎えに来てもらうという話でした。もちろん緊急の場合にはスタッフが連れて行き、そういうことは年に1、2回程度とのこと。

### ★保護者との信頼関係で運営

訴訟になったことはあるか、という質問もありました。事故については保護者が対処するため、各自（各家庭）で傷害保険を

かけているそうです。ここでは訴訟のような問題になったことはないとのことでした。

通所する費用については基本的には無料ですが、ゴーカートなど活動によっては特別な費用がかかるということです。



#### ★4つの約束

子ども達にはこのセンターで活動する際に、大事なこと（約束）を4つ伝えているそうです。壁にも掲示してありました。

1. Fællesskab コミュニティ  
共同して活動すること
2. Plads til forskellighed  
多様性のための場所  
みんな違うということ  
(みんな違ってみんないい)
3. Livsglæde 幸せ  
楽しく過ごすこと
4. Sundhed på mange måder いろいろな意味での健康  
心とからだの健康

センター内にはカフェがあり、健康に配慮された物をおいてあり、買うことができます。（フルーツやクッキーなどをみんなで試食させていただきました。）

#### ★アクティビティ体験

その後、施設見学とアクティビティ体験

をさせていただきました。

室内には、カフェ、卓球ルーム、コンピュータースペース、ゲームコーナー、お化粧品コーナー、スタジオなどがありました。また、屋外には、ゴーカートコース、馬場、小動物小屋、クライミング、ターザンロープなどの施設があります。私たちはゴーカートやクライミングを実際に体験させてもらいました。

#### ★感想＜日本との違い＞

子ども達がフレンドリーに接してくれたことが印象的でした。スタジオでの劇の説明やゴーカートの準備などの際にも上手に説明してくれました。

日本での学童保育のような位置づけですが、学童といえば私の子どもは3年生まで学童に通っていました。このセンターとは違いもっと小さい頃です。有料なのですが、仕事の都合で必要に迫られてお世話になっていた形です。習いごとなどを始めるとやめてしまう場合が多かったようです。

デンマークのスタイルはクラブ的なもので、より充実した活動が展開できる点が魅力的でした。塾がないのでしょうか。

私の下の子どもは特別支援学校に通っていますので、そこでは放課後の活動はありません。学童保育もありませんので残念に感じる場合があります。このセンターではどの程度受け入れているか、どのように対応しているか、聞いてみたかったです。



＜元気な子どもたちと一緒に＞